

デジタル田園都市国家構想交付金

事業シート

第 10 回八戸市総合計画等推進市民委員会

令和 7 年 12 月 24 日

八 戸 市

事業シート目次

No.1 はちのへ AI（アイ）中心街・バス活性化プロジェクト（推進）	P 3
No.2 いきいきとしたデジタル社会推進事業（推進）	P 6
No.3 産学官連駅による八戸未来創造事業（推進）	P 9
No.4 蕪島エントランス整備事業（拠点）	P 12
No.5 多賀多目的運動場スタジアム照明整備事業（拠点）	P 14
No.6 市営魚菜小売市場を核とした官民連携による個性あふれる商店街の形成と水産業の振興（拠点）	P 16
No.7 旧柏崎小学校跡地広場（仮称）を新たな観光資源とした中心市街地の賑わい創出と八戸三社大祭の振興・伝承事業（拠点）	P 18

事業シートの見方

No.○ □□□□□事業（推進・拠点）

※事業名とデジタル田園都市国家構想交付金（推進）または、デジタル田園都市国家構想交付金（拠点）のどちらを活用したか記載しています。

1. 事業概要

担当部署：△△△△課

目的	※本事業の目的を記載しております。
事業期間	令和〇〇年度～令和〇年度（〇年間）
令和5年度実績額	総事業費：〇〇〇〇千円（うち国費：〇〇〇〇千円）※千円以下は切り捨て
交付金事業の取組及び実績	【過去の取り組み】 ※別紙資料2参照 【令和6年度の取組】 ※本事業に関する取組及び実績を記載しております。 ※千円以下は四捨五入
K P I	※別紙資料2参照
担当部署評価	※担当部署において、凡例を基に5段階の評価をしております。 <input type="checkbox"/> ①地方創生に非常に効果的であった <input type="checkbox"/> ②地方創生に相当程度効果があった <input type="checkbox"/> ③地方創生に効果があった <input type="checkbox"/> ④地方創生に対して効果がなかった <input type="checkbox"/> ⑤効果の有無はまだわからない
担当部署評価理由	※上記の評価をした理由を記載しております。

2. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ①地方創生に非常に効果的であった
- ②地方創生に相当程度効果があった
- ③地方創生に効果があった
- ④地方創生に対して効果がなかった
- ⑤効果の有無はまだわからない

委員メモ欄

(評価の凡例：選択肢)

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合
⑤	効果の有無はまだわからない	例：施設を整備中など、KPI の実績が出ていない場合

No.1 はちのへ AI（アイ）中心街・バス活性化プロジェクト（推進）

1. 事業概要

担当部署：政策推進課、情報政策課、
まちづくり推進課、はっち

目的	デジタル技術を活用し、中心街への誘客推進と公共交通の利用促進を図るとともに、人流データ等を活用した中心街の賑わい創出やバス路線の最適化に向けた施策立案を行い、さらなる市政発展に繋げていくことを目的とする。
事業期間	令和4年度～令和6年度（3年間）※横展開タイプ
令和6年度実績額	総事業費：15,924千円（うち国費：7,962千円）
交付金事業の取組及び実績	<p>【過去の取組】 別紙参考資料2 1ページ</p> <p>【令和6年度の取組】</p> <p>①はちまちアプリの運営【まちづくり推進課】 概要：中心街のスポットやイベント情報、店舗紹介など情報を発信するはちまちアプリを活用し、中心街のイベントと連動して中心商店街のクーポンの配布を行うことで、来街者の増加を図るとともに、はちまちアプリ登録者の増加を図り、将来的な自走につなげるもの。 実績：はちまちLINE登録者数 7,350人（令和7年3月19日現在） 事業費：4,950千円（うち国費：2,475千円）</p> <p>②MaaSシステムの活用等【政策推進課】 概要：令和4～5年度に構築した「バスICカード可視化・分析システム」の保守・管理・運営業務を行った。運営業務としては、システムを活用し、交通事業者と路線再編について、協議を行った。 実績： ・令和5年度の路線再編における利用者変化の分析 ・ピアドウ内イトヨーカドー閉業に伴うバス利用への影響分析 ・市内路線の利用状況分析 事業費：3,564千円（うち国費：1,782千円）</p> <p>③まちなかWi-Fi、AIカメラ回線使用料【まちづくり推進課】 概要：市が開発した各種アプリやまちなかWi-Fiの通信費等。 実績： ・まちなかWi-Fi及びAIカメラデータ送信にかかる回線使用料（令和6年4月～令和7年3月分） 事業費：7,040千円（うち国費：3,520千円）</p> <p>④バスナビモニターの更新【八戸ポータルミュージアムはっち】 概要：MasSシステムの活用に合わせて、中心街バスターミナル（マチニワ）に設置しているバスナビモニターを更新することでわかりやすい時刻表の表示などバス利用者の利便性向上を図り、バス利用の促進につなげるもの。 実績：バスナビモニター 令和6年7月11日設置完了 事業費：370千円（うち国費：185千円）</p>
K P I	別紙資料2 2～3ページ参照

担当部署 評価	<input type="checkbox"/> ①地方創生に非常に効果的であった <input type="checkbox"/> ②地方創生に相当程度効果があった <input checked="" type="checkbox"/> ③地方創生に効果があった <input type="checkbox"/> ④地方創生に対して効果がなかった <input type="checkbox"/> ⑤効果の有無はまだわからない
担当部署 評価理由	<ul style="list-style-type: none"> 「中心市街地歩行者通行量」について、R4 年度に大型商業施設が続けて閉館するなど来街者数を大幅に減らす要因があったことから R5 年度に大幅な減少が見られたが、R5 年度から本事業を含む賑わい創出に向けた各取組の実施により、R6 年度には回復が見られた。 「はちまち LINE 満足度」は、アプリ登録者 7,350 人を対象に調査した結果、回答に協力いただけた方 249 名(回答率 3.4%)について、満足度 5 段階評価中 4 以上で回答した方は全体の 44%、3 以上になると全体の 86% であった。意見としては、中心市街地以外の情報やより詳細な個別の店舗、新規出店情報など、サービス拡充を望む声が多いことから、デジタルコンテンツによる情報発信を求める市民ニーズに応える成果はあったものと思われる。一方で、回答率が低いことから、ユーザーの興味を引く情報発信内容に努める必要があると感じている。 「中心市街地駐車場共用化システム満足度」は、アンケート回答者 157 名で、利用できる加盟店舗の数について 24.2%、はちのヘポイントとおんでもカードの交換機の設置場所について 17.2% が満足しているという結果で、どちらとも約 40% が「分からぬ」との回答であったことから、「おんでもカード」自体の認知度が低く、利活用に至っていないことが分かった（事業実施期間が 5 か月と短期間であったことが要因と考えられる）。 バス路線の減便や人口減少によりバス利用者数の KPI は未達成であるが、データの活用によるバス路線の最適化を図るための仕組みが整ったことから、バス停ごとの利用状況をふまえ、路線バスの利便性向上や効率運行について関係者と引き続き検討していく。 市主要施設におけるキャッシュレス決済使用件数は KPI を大きく上回っており、地域の活性化に伴う地方創生の効果があったものと考える。

2. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ①地方創生に非常に効果的であった
②地方創生に相当程度効果があった
③地方創生に効果があった
④地方創生に対して効果がなかった
⑤効果の有無はまだわからない

委員メモ欄

〈評価の凡例：選択肢〉

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合
⑤	効果の有無はまだわからない	例：施設を整備中など、KPI の実績が出ていない場合

No.2 いきいきとしたデジタル社会推進事業（推進）

担当部署：情報政策課、総合教育センター

1. 事業概要

目的	IT フォーラム等により、地元 IT 企業の連携強化を図り、デジタル人材の確保や地域のデジタル化に関する産学官連携を促進するとともに、八戸市児童科学館のデジタルリノベーションに向けた設計業務等を行うことにより、子どもの遊ぶ場の確保、新たな「学び」を提供する拠点づくりを目指すもの。																																							
事業期間	令和5年度～令和7年度（3年間） ※横展開タイプ																																							
令和6年度実績額	総事業費：17,655千円（うち国費：8,827千円）																																							
交付金事業の取組及び実績	<p>【過去の取組】 別紙参考資料2 4ページ</p> <p>【令和6年度の取組】</p> <p>①地元 IT 企業の連携を深め、地域のデジタル化を図る事業 【情報政策課】</p> <p>概要：地元 IT 企業が一堂に会する IT フォーラムの開催やデジタルに関するワークショップの開催など地域のデジタル化への機運の醸成を図るとともに、地元 IT 事業者や中小企業、高等教育機関を対象に、デジタル化に関する認知度調査の実施やデジタル化に関するニーズと技術のマッチング等、地域のデジタル人材の育成・確保につなげていく。</p> <p>R6 事業内容及び実績：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>開催日</th> <th>参加者数</th> <th>満足度 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はちのへITフォーラム2024</td> <td>令和6年11月20日</td> <td>205名</td> <td>86%</td> </tr> <tr> <td colspan="4">ワークショップ（全4回）</td></tr> <tr> <td>IT業界を目指す学生とIT業界で働く先輩のミートアップ 内容：学生と若手ITエンジニアが交流し、仕事やスキル、地域就職の魅力を共有。</td><td>令和6年9月28日</td><td>20名</td><td>92%</td></tr> <tr> <td>はちのへスマホサポート講習会 内容：高齢者支援スマホソーターを育成し、実践力を養う</td><td>令和6年12月14日</td><td>31名</td><td>100%</td></tr> <tr> <td>店舗のInstagram（&デジタル活用）徹底クリニック 内容：2日間でアプリ開発に挑戦し、実践力と交流を深める。</td><td>令和7年1月20日</td><td>43名</td><td>97%</td></tr> <tr> <td>八戸市ハッカソン2025 内容：事業者向けにSNS活用を学び、集客・発信力を向上。</td><td>令和7年2月22日～2月23日</td><td>32名</td><td>100%</td></tr> <tr> <td colspan="2"></td><td>合計 331名</td><td>平均 95%</td></tr> <tr> <td colspan="4">事業費：5,995千円（うち国費：2,998千円）</td></tr> </tbody> </table>				名称	開催日	参加者数	満足度 (%)	はちのへITフォーラム2024	令和6年11月20日	205名	86%	ワークショップ（全4回）				IT業界を目指す学生とIT業界で働く先輩のミートアップ 内容：学生と若手ITエンジニアが交流し、仕事やスキル、地域就職の魅力を共有。	令和6年9月28日	20名	92%	はちのへスマホサポート講習会 内容：高齢者支援スマホソーターを育成し、実践力を養う	令和6年12月14日	31名	100%	店舗のInstagram（&デジタル活用）徹底クリニック 内容：2日間でアプリ開発に挑戦し、実践力と交流を深める。	令和7年1月20日	43名	97%	八戸市ハッカソン2025 内容：事業者向けにSNS活用を学び、集客・発信力を向上。	令和7年2月22日～2月23日	32名	100%			合計 331名	平均 95%	事業費：5,995千円（うち国費：2,998千円）			
名称	開催日	参加者数	満足度 (%)																																					
はちのへITフォーラム2024	令和6年11月20日	205名	86%																																					
ワークショップ（全4回）																																								
IT業界を目指す学生とIT業界で働く先輩のミートアップ 内容：学生と若手ITエンジニアが交流し、仕事やスキル、地域就職の魅力を共有。	令和6年9月28日	20名	92%																																					
はちのへスマホサポート講習会 内容：高齢者支援スマホソーターを育成し、実践力を養う	令和6年12月14日	31名	100%																																					
店舗のInstagram（&デジタル活用）徹底クリニック 内容：2日間でアプリ開発に挑戦し、実践力と交流を深める。	令和7年1月20日	43名	97%																																					
八戸市ハッカソン2025 内容：事業者向けにSNS活用を学び、集客・発信力を向上。	令和7年2月22日～2月23日	32名	100%																																					
		合計 331名	平均 95%																																					
事業費：5,995千円（うち国費：2,998千円）																																								

	<p>②八戸市児童科学館デジタルリノベーションに係る実施設計【総合教育センター】</p> <p>概要：八戸市児童科学館を STEAM 教育のラボ（＝研究所）として、プログラミングワークショップ、3D プリンタ・レーザーカッター等最新技術によるものづくり、最新プラネタリウムや宇宙・天文関連のデジタルアクティビティを体験できる施設へとリニューアルし、利用者の創造性や問題解決能力を育む。また、市内企業や地元大学との連携したブース出展等の産学官連携事業を推進するとともに、GIGA スクール構想に基づく学校教育との連動が可能な施設へと更新する。</p> <p>実績：八戸市児童科学館リニューアル実施設計書策定 総事業費：11,660 千円（うち国費：5,830 千円）</p>
K P I	別紙資料 2 5～6 ページ参照
担当部署評価	<input type="checkbox"/> ①地方創生に非常に効果的であった <input type="checkbox"/> ②地方創生に相当程度効果があった <input checked="" type="checkbox"/> ③地方創生に効果があった <input type="checkbox"/> ④地方創生に対して効果がなかった <input type="checkbox"/> ⑤効果の有無はまだわからない
担当部署評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ● 地元 IT 企業の連携を深め、地域のデジタル化を図る事業に関する満足度が 95%という結果であった。 ● また、IT フォーラムを開催したことにより、産学官連携の基盤が強化され、地域全体でデジタル化を進める意識が高まり、ワークショップでは IT 活用方法や実践的な IT スキルの共有により、地域のデジタル人材の育成に寄与した。 ● なお、今年度は、八戸市児童科学館のデジタルリノベーションの推進に向けた詳細設計業務を進めており、KPI として設定しているデジタルコンテンツ利用者数に係る効果検証は、2025 年度以降となる予定。

2. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ①地方創生に非常に効果的であった
②地方創生に相当程度効果があった
③地方創生に効果があった
④地方創生に対して効果がなかった
⑤効果の有無はまだわからない

委員メモ欄

〈評価の凡例：選択肢〉

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合
⑤	効果の有無はまだわからない	例：施設を整備中など、KPI の実績が出ていない場合

No.3 産学官連携による八戸未来創造事業（推進）

担当部署：政策推進課、産業労政課、

1. 事業概要

こども未来課

目的	「産学官連携による八戸未来創造中長期計画」において、若者人口【15～29歳】の増減数を中期（2025年）に▲2,000人まで抑制し、長期（2045年）に増減を均衡させることを目標として定めており、当目標を達成していくために、産学官の連携を強化し、若者の地元への愛着の醸成や地元定着等に向けた取組を進め、将来的な若者人口の社会増減の均衡を図る。
事業期間	令和6年度～令和8年度（3年間） ※横展開タイプ
令和6年度実績額	総事業費：26,505千円（うち国費：13,252千円）
交付金事業の取組及び実績	<p>【令和6年度の取組】</p> <p>①産学官連携事業【政策推進課】</p> <p>概要：八戸産学官連携推進会議の事務局機能の強化を図るために、同会議の下部組織として事業検討部会を設置し、この部会の中で、事務局体制のあり方や体制整備について検討を行う。また、産学官連携事業の拡充を図っていくため、市内企業や事業所等に対してニーズ調査を行い、地元企業等が求める人材（デジタル人材含む）や外国人材の活用等についての意向を把握する。</p> <p>実績：市内事業所を中心に調査を実施。 調査票配付数 3,579/回答数 1,747/回答率 48.8% 事業費：5,161千円（うち国費：2,580千円）</p> <p>②社内人材育成支援事業【産業労政課】</p> <p>概要：八戸市内の企業を対象に経営課題の整理や見える化を図るとともに、人的資本経営の推進や経営戦略に連動した人材戦略の策定を支援することで、生産性の向上や職場環境の改善につなげ、人材が定着し持続的に成長できる魅力ある企業の拡大を目指すことを目的に、人材戦略の策定に関するセミナーの開催及び個別相談（アドバイザー派遣）、個別相談における成果の報告会を実施する。</p> <p>実績：セミナー 参加企業 21社/参加者 21人 個別相談 2社 成果報告会 参加企業 16社/19人 事業費：3,295千円（うち国費：1,647千円）</p> <p>③クロステックイノベーション事業【産業労政課】</p> <p>概要：デジタル技術により解決が期待される地域課題に対し、課題解決に向けた実証プロジェクトを実施したい事業者を公募し、実証プロジェクトを実施した上で事業化に向けた検証を行う。</p> <p>実績：3件の課題について事業者と担当課のマッチングを行い、実証プロジェクトを実施した。 事業費：7,655千円（うち国費：3,827千円）</p> <p>④こどもまちなかIT部運営事業【こども未来課】</p> <p>概要：こどもが成長していく段階で、地元のことを知る機会を増やし、様々な体験を通して地元の魅力に触れてもらうことで当市への愛着や理解を促進していくため、部</p>

	<p>員となった中高生が、市中心街に設置した部室(情報発信基地)を拠点に、自由な発想と視点によって取材等を行いながら、地元の魅力に関する情報発信や子ども同士が交流できる機能をもったホームページを作成する。</p> <p>実績：中高生 12 名を部員に任命し、計 13 回の活動を行った。 令和 7 年 3 月 8 日にホームページを公開（主な構成は以下のとおり）。</p> <table border="1"> <tr> <td>記事一覧</td><td>自然・文化・食・人物など地元八戸の魅力情報 ※部員がテーマを決めて記事づくりを行う。</td></tr> <tr> <td>八戸市からこどもたちへ</td><td>悩みや困りごとの相談先、子どもの権利や子ども基本法、八戸の取組など ※市が作成。</td></tr> <tr> <td>交流フォーム</td><td>IT 部や行政への問い合わせ、意見・提案など ※誰でも書き込めるフォーム</td></tr> </table> <p>事業費：10,394 千円（うち国費：5,197 千円）</p>	記事一覧	自然・文化・食・人物など地元八戸の魅力情報 ※部員がテーマを決めて記事づくりを行う。	八戸市からこどもたちへ	悩みや困りごとの相談先、子どもの権利や子ども基本法、八戸の取組など ※市が作成。	交流フォーム	IT 部や行政への問い合わせ、意見・提案など ※誰でも書き込めるフォーム
記事一覧	自然・文化・食・人物など地元八戸の魅力情報 ※部員がテーマを決めて記事づくりを行う。						
八戸市からこどもたちへ	悩みや困りごとの相談先、子どもの権利や子ども基本法、八戸の取組など ※市が作成。						
交流フォーム	IT 部や行政への問い合わせ、意見・提案など ※誰でも書き込めるフォーム						
K P I	別紙資料 2 8～9 ページ参照						
担当部署 評価	<input type="checkbox"/> ①地方創生に非常に効果的であった <input type="checkbox"/> ②地方創生に相当程度効果があった <input checked="" type="checkbox"/> ③地方創生に効果があった <input type="checkbox"/> ④地方創生に対して効果がなかった <input type="checkbox"/> ⑤効果の有無はまだわからない						
担当部署 評価理由	<ul style="list-style-type: none"> 産学官連携事業では、市内企業や事業所等に対してニーズ調査を行い、市内事業所等のニーズを把握とともに、調査で明らかになった課題・ニーズに対して、産学官が連携して取組を検討し、新たな事業を展開することができた。 人的資本経営の推進のためのセミナーや成果報告会に出席した企業ならびに個別相談（アドバイザー派遣）を受けた企業において、人事評価や採用方法の見直し強化が実施され人材確保や定着に向けた取組みに寄与できた。 クロステックイノベーション事業については、目標を上回る 3 件の実証事業を実施し、そのうちの 1 社は八戸市内に拠点を構えることになった。 公募により部員となった中高生 12 名が市内で取材活動や地元の人との交流を図りながら、地元の魅力等に関する記事をまとめ、子ども向けホームページづくりを行い、新たな情報発信ツールを創出することができた。（令和 7 年 3 月 HP 公開） 						

2. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ①地方創生に非常に効果的であった
②地方創生に相当程度効果があった
③地方創生に効果があった
④地方創生に対して効果がなかった
⑤効果の有無はまだわからない

委員メモ欄

〈評価の凡例：選択肢〉

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合
⑤	効果の有無はまだわからない	例：施設を整備中など、KPI の実績が出ていない場合

No.4 蕪島エントランス整備事業（拠点）

1. 事業概要

担当部署：観光課

目的	三陸復興国立公園の北の玄関口である蕪島地区において、地域の特産品や土産品等の販売のほか、休憩もできる憩いの空間としての蕪島物産販売施設を整備することで、蕪島地区での滞在時間の延長、地域の賑わいの創出及び地域経済の振興を図ることを目的とする。 また、令和2年3月に、当市を代表する観光スポットである蕪嶋神社の再建工事が完了し、令和2年5月に物産販売施設がオープンした。観光入込客数の増加、地域経済活性化等の相乗効果を図ることで年間10万人以上の集客を目指す。
事業期間	令和元年4月～令和2年3月
令和6年度実績額	- ※総事業費：126,874千円（うち国費：64,437千円）
交付金事業の取組及び実績	<p>【過去の取組】 別紙資料2 10ページ参照</p> <p>【令和6年度の取組】 蕪島物産販売施設の運営 概要：物産機能、飲食提供機能、休憩機能を持つ物産販売施設を運営する。 実績：来店者 213,359人 事業費：7,207千円（市単費）</p>
KPI	別紙資料2 11～12ページ参照
担当部署評価	<input checked="" type="checkbox"/> ①地方創生に非常に効果的であった <input type="checkbox"/> ②地方創生に相当程度効果があった <input type="checkbox"/> ③地方創生に効果があった <input type="checkbox"/> ④地方創生に対して効果がなかった <input type="checkbox"/> ⑤効果の有無はまだわからない
担当部署評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ● 売上金額及び入込客数ともにKPIの目標値を上回っており、事業の目的とする効果が大いに得られたと考える。



2. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ①地方創生に非常に効果的であった
- ②地方創生に相当程度効果があった
- ③地方創生に効果があった
- ④地方創生に対して効果がなかった
- ⑤効果の有無はまだわからない

委員メモ欄

〈評価の凡例：選択肢〉

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合
⑤	効果の有無はまだわからない	例：施設を整備中など、KPI の実績が出ていない場合

No.5 多賀多目的運動場スタジアム照明整備事業（拠点）

1. 事業概要

担当部署：スポーツ振興課

目的	多賀多目的運動場天然芝球技場において、夜間も興行等を行えるような照明設備を設置し、Jリーグが求めるスタジアム基準を満たすホームスタジアムの整備を行う。また、関連する事業を強化していくことで、県内外からより多くの来訪者を呼び込み、交流人口の拡大を通じた地域経済の活性化と観るサッカー文化の醸成を図る。
事業期間	令和2年4月～令和3年3月
令和6年度実績額	— ※総事業費：655,424千円（うち国費：327,712千円）
交付金事業の取組及び実績	<p>【過去の取組】 別紙資料2 13ページ参照</p> <p>【令和6年度の取組】 多賀多目的運動場天然芝球技場の運営 概要：照明設備を使用し、Jリーグ公式戦においてナイトゲームを開催する。 照明設備を使用し、市民等に向けた夜間の興行を行う。 実績：公式戦21試合開催（ナイトゲーム6試合）</p>
KPI	別紙資料2 14～15ページ参照
担当部署評価	<input type="checkbox"/> ①地方創生に非常に効果的であった <input type="checkbox"/> ②地方創生に相当程度効果があった <input checked="" type="checkbox"/> ③地方創生に効果があった <input type="checkbox"/> ④地方創生に対して効果がなかった <input type="checkbox"/> ⑤効果の有無はまだわからない
担当部署評価理由	<ul style="list-style-type: none"> KPIは目標値に達しなかったものの、JリーグYBCルヴァンカップでは、4月17日の鹿島アントラーズ戦において観客動員数4,844人を記録するなど、地域経済の活性化と観るサッカー文化の醸成に一定の効果があったと思われる。



2. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ①地方創生に非常に効果的であった
- ②地方創生に相当程度効果があった
- ③地方創生に効果があった
- ④地方創生に対して効果がなかった
- ⑤効果の有無はまだわからない

委員メモ欄

〈評価の凡例：選択肢〉

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合
⑤	効果の有無はまだわからない	例：施設を整備中など、KPI の実績が出ていない場合

No.6 市営魚菜小売市場を核とした官民連携による個性あふれる商店街の形成と水産業の振興（拠点）

1. 事業概要

担当部署：まちづくり推進課

目 的	陸奥湊駅通り地区商店街を牽引してきた代表的な施設である市営魚菜小売市場のリニューアルを通して、小売機能の再生による商店街の振興、魚食普及による水産業振興、観光機能の充実による誘客推進のそれぞれが機能し、相乗効果を生むことで地区の活性化を目指す。
事 業 期 間	令和3年4月～令和4年11月
令 和 6 年 度 実 績 額	－ ※総事業費：517,386千円（うち国費：258,693千円）
交 付 金 事 業 の 取 組 及 び 実 績	<p>【過去の取組】 別紙資料2 16ページ参照</p> <p>【令和6年度の取組】 八戸市魚菜小売市場の管理・運営 概要：入居店子及び貸館スペースの施設使用料管理、 施設内の警備・清掃及び電気機械設備の維持管理等 実績：入場者数 222,461人 事業費：14,224千円（市単費） ※使用料収入 9,738千円を除く実質市負担額は約4,486千円）</p>
K P I	別紙資料2 17～18ページ参照
担 当 部 部 評 価	<input type="checkbox"/> ①地方創生に非常に効果的であった <input checked="" type="checkbox"/> ②地方創生に相当程度効果があった <input type="checkbox"/> ③地方創生に効果があった <input type="checkbox"/> ④地方創生に対して効果がなかった <input type="checkbox"/> ⑤効果の有無はまだわからない
担 当 部 部 評 価 理 由	<ul style="list-style-type: none"> ● オープン後の集客力アップにより関係人口・交流人口の拡大につながった。現在、魚菜小売市場周辺ではまちづくり会社による民間市場群の再整備が進められており、さらなる波及効果の発現が期待される。



2. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ①地方創生に非常に効果的であった
- ②地方創生に相当程度効果があった
- ③地方創生に効果があった
- ④地方創生に対して効果がなかった
- ⑤効果の有無はまだわからない

委員メモ欄

〈評価の凡例：選択肢〉

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合
⑤	効果の有無はまだわからない	例：施設を整備中など、KPI の実績が出ていない場合

No.7 旧柏崎小学校跡地広場（仮称）を新たな観光資源とした中心市街地の賑わい創出と八戸三社大祭の振興・伝承事業（拠点）

1. 事業概要

担当部署：観光課

目的	旧柏崎小学校跡地の広場に山車を制作できる施設を整備することで、日本を代表する山車祭りである八戸三社大祭の保存・継承を図るとともに、お囃子の練習風景や山車制作の様子など、祭りにより身近に触れ合える施設として観光誘客の促進や地域住民の愛着醸成につなげるものである。
事業期間	令和5年6月～令和6年3月
令和6年度実績額	— ※総事業費：389,860千円（うち国費：194,930千円）
交付金事業の取組及び実績	<p>【令和5年度の取組】別紙資料2 19ページ参照</p> <p>【令和6年度の取組】</p> <p>①山車制作展示施設の活用 概要：施設の供用開始、山車の入庫 実績：令和6年7月31日供用開始、6山車組による施設使用開始</p> <p>②デジタルコンテンツの活用 概要：令和5年度に制作したデジタルコンテンツ（山車運行動画、祭りの歴史紹介動画、周辺施設紹介動画）を活用したスタンプラリー型周遊観光コンテンツの制作 ※中心街から、山車制作展示施設へのまち歩き回遊ルート構築 実績：デジタルスタンプラリー「ハチノヘウォーカブル」</p>
KPI	別紙資料2 20～21ページ参照
担当部署評価	<input type="checkbox"/> ①地方創生に非常に効果的であった <input type="checkbox"/> ②地方創生に相当程度効果があった <input type="checkbox"/> ③地方創生に効果があった <input type="checkbox"/> ④地方創生に対して効果がなかった <input checked="" type="checkbox"/> ⑤効果の有無はまだわからない
担当部署評価理由	<ul style="list-style-type: none"> ● 6年度は山車組の入居後、引越作業に時間を要したため、山車の展示等の活動は7年度以降となった。また、7年度からは、デジタルスタンプラリー「ハチノヘウォーカブル」の運用開始をしたが、施設前広場の工事も始まっており、当施設を活用した本格的なイベント等の実施による効果の発現は、広場供用開始予定の令和10年以降となる見込みである。



2. 委員による評価

本事業の実施による、地方創生への効果について御判断していただきます。

- ①地方創生に非常に効果的であった
- ②地方創生に相当程度効果があった
- ③地方創生に効果があった
- ④地方創生に対して効果がなかった
- ⑤効果の有無はまだわからない

委員メモ欄

〈評価の凡例：選択肢〉

①	地方創生に非常に効果的であった	例：全ての KPI が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②	地方創生に相当程度効果があった	例：一部の KPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③	地方創生に効果があった	例：KPI 達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④	地方創生に対して効果がなかった	例：KPI の実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合
⑤	効果の有無はまだわからない	例：施設を整備中など、KPI の実績が出ていない場合